

高知県の河川

【現 状】

かつての河川改修後、集落の間を流れる区間では溪流に見られる大石が無くなって「瀬」や「淵」が消失し、単調な河川環境となっていました。

そのため、徐々に水生昆虫のすみかや魚の隠れ家や餌場が減りました。特に、水の流れが緩やかになったため猛暑には水温が上昇し、アユなども年々棲めなくなっていました。

【変 化】

【近自然河川工法による川づくり】

こういった状況が続く中、高知県馬路村安田川の上流域(山地河川域)のJA馬路の対岸付近(左岸側)で地元の方々や馬路村、JA馬路、高知県が中心となり、自然あふれる元の川に戻そうという取り組みが始まりました。

その中で採用された川づくりは「近自然工法」といいます。これは本来自然が持つ力(水の流れや地形の影響など)を最大限引き出し、そこに生きる全ての生きものに配慮した川づくりのことで、

この場所では、川の流れをよみ、石積みによる水制を用いることで、川の流れに変化を持たせました。その結果、失われていた淵や瀬を再びよみがえらすことに成功いたしました(写真2)。

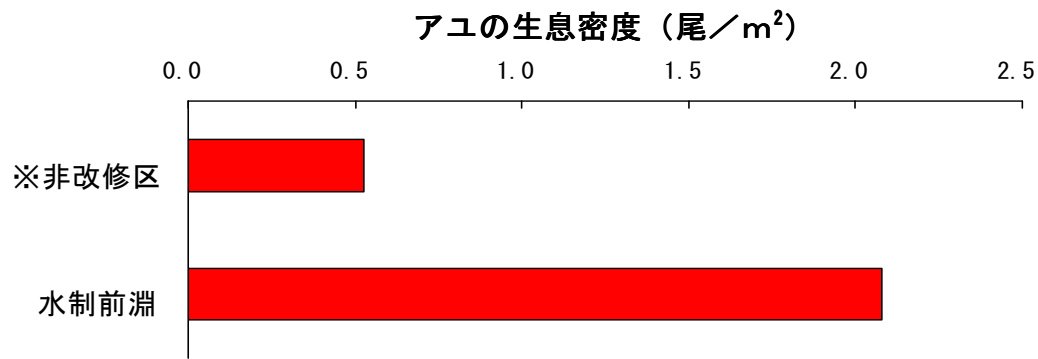
魚も徐々に戻り、水制設置によって復元した淵では多数のアユが見られ、水制の無い場所に比べ4倍以上増えました(図1)。また施工から2年目の夏にはアマゴも確認でき、溪流本来の自然へと近づきつつあると感じました(写真3)。



写真1. 近自然工法の取り組みを行った安田川上流



写真2. 水制と淵
白枠内は、石積みによる水制の様子。



※非改修区とは、水制を設置した場所の上下流で、かつて人工の手が入っていた区間

図1. 水制取組の有無とアユ個体数との関係



写真3. 水制域内の湧水へのアマゴの集合現象

【人とのかかわり】

瀬と淵が復活した安田川には、全国から多くの河川技術者が視察に訪れるようになりました。また、愛知県の手建設会社は、平成20年から毎年、社員研修として、馬路村での石積研修を実施しています。

このような視察、研修を積極的に誘致し、安田川を自然の復元技術を学べる場として全国発信することができれば、安田川を訪れる新たな意義が生まれます。それは、土木技術の交流にとどまらず、人と人との繋がりに拡大し、地域の活性化に発展していくことでしょう。

安田川の再生は、自然環境の改善、建設業に始まる地域産業の活性化に波及するだけでなく、そこから生まれた人々のネットワークが地域全体の魅力を増していくことにつながります。

福留脩文・大下宗亮（株式会社 西日本科学技術研究所）